

# 第1回 一緒に作ろう 白井の地域包括ケア

～私たちに何が出来るか考えよう～

千葉県千葉リハビリテーションセンター 地域連携部 部長 田中康之 氏

平成 27 年 6 月 11 日 in 白井市保健福祉センター 団体活動室

## ＜ 講演のポイント ＞

**「連携」という言葉** あなたが考える「連携」、隣の人が考える「連携」同じでしょうか？「連携」についての共通の認識を得ておくことが大事です。「判ったような、判らない言葉」は避け皆が同じ土俵に乗ることができるようにしましょう。

### なぜ、「地域」？

在宅での生活を希望する方が増えています。一方で、急変時の対応や家族の介護負担に不安が抱えている割合も高いです。今後、75 歳以上の高齢者数の増加に伴い、病床数の不足から医療機関以外での看取りが増えていきます。『孤独死』の定義を改めていくことも必要ではないでしょうか。



**「地域包括ケア」とは考え方** →何が化けた考え方なのか？  
**「在宅の限界点の向上」をその土地に合わせた形に化けさせること。ご当地システムを作れるか否かが勝負！**  
そのためには、介護職が担っていた生活支援の役割を住民ボランティアや民間事業者へと移行していくことが重要です。

## ＜ 専門職が地域包括ケア推進で取り組むこと ＞

植木鉢の土の部分である生活支援・福祉サービスの資源創出において、注意しなければいけないことは、**専門職が率先して土を耕さない**ことです。専門職が耕してしまうと「これからもやってもらえる」と思われてしまい、結果として専門職が全部耕すことになってしまいます。専門職の知識と技能を活かして、**生活支援の担い手(ボランティア等)自らが土を耕していけるように支援していく**ことがポイントです。



葉の部分は、専門職が担う役割  
専門職は、土の部分：生活支援の担い手(ボランティア等)の支援に携わることが求められている！

肥沃な土がないと葉は育たない

土は勝手に良くならない

耕す心構え・方法を伝授する！

- その為には…
- 耕す土地を知らないといけない
  - 耕し方を知らなくてはいけない
  - 伝授方法を知らないといけない

上記資料の著作権は田中康之氏に属します



次回は、平成 27 年 9 月の開催を予定しています。詳細が決まり次第、ご案内いたします。